

令和3年度5年生
昨年度の授業改善プランについて

国語⇒伝えたいことを明確にして話し、聞くときには目的にそってメモをとりながら聞くように指導することで、発表場面では成果が見られた。大切なことを落とさずに聞くことには課題が残った。字を雑に書いたり、既習した漢字を使わないで作文を書いたりする児童が多い。

社会⇒学習のまとめなどで自分の考えを表現する機会を設けることで、発信する力が付いた。グラフや地図などの資料の読み取りには課題が残った。

算数⇒作図や操作活動を取り入れた授業を行い、考えを説明することができるようになった。

掛け算、割り算の筆算などの基礎的な内容に課題のある児童がいる。基礎基本の学習の繰り返し学習が必要である。

理科⇒実験や観察を生かし、主体的に学習に取り組むことができたが、知識の定着や結果から考察を導くことには、課題が残った。

I 大田区学習効果測定の結果と概要

△：正答率の平均が目標値を上回った教科・観点

≒：正答率の平均が目標値と同程度の教科・観点

▼：正答率の平均が目標値を下回った教科・観点

教科	国語			社会			算数			理科		
全体	△			▼			△			▼		
観点別	≒	△	▼	▼	▼	▼	△	△	△	▼	▼	▼
	知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

1 教科全体

国語と算数は、基礎的な内容について目標値を上回っている。算数は活用力も目標値を上回った。社会と理科については、目標値を下回る結果だった。基礎的な内容と活用力ともに目標値を下回っている。

2 観点別

国語は文章や話し合いを基にした記述をすること、社会は資料の読み取りから課題に対し判断すること、理科は自然体験や観察を基に自然事象の理解をすることが目標値を下回った。算数は、記述を伴う活用力も目標値を上回った。

II 教科ごとの授業改善プラン

1 国語・社会・算数・理科

【国語】 文章や話し合いの内容について、共通点や着目点が明確につかめるように視覚的に示す。また、視覚化したことを活用して記述したことを読み直す活動を取り入れる。そして、国語に限らず、各教科にわたり自分の意見や考えを記録する機会を設けて、主体的に取り組む態度を高めていく。

【社会】 課題解決のための「めあて」にそって、資料から読み取った内容から情報を整理する活動を繰り返し取り組ませる。「学習のまとめ」にむけて、必要な情報を判断する力を高めていく。

【算数】 基礎力の定着を活かして、数の拡張に伴う処理やしくみの理解の徹底を図る。朝学習を使って小数の割り算を正確に解く問題に取り組ませる。また、活用する力の定着を図るため問題場面の関係を図や表で捉える活動を取り入れていく。

【理科】 新しい単元の導入の際に、既習事項をしっかりと捉えさせる。実験や動画などを取り入れて、既習内容が想起しやすい学習環境を整え、主体的に取り組む態度を高めていく。

2 音楽・図工・家庭科・体育

	児童の実態		授業改善プラン
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ●知識・技能 <ul style="list-style-type: none"> ・正しい音程で歌ったり、正しい運指で器楽の練習をすることができる児童が多い。 ・数名の児童に苦手意識があるので、個別での支援が必要である。 ●思考・判断・表現 <ul style="list-style-type: none"> ・曲の雰囲気を感じとり、楽しみながら歌ったり演奏したりすることができる児童が多い。 ●主体的に学習に取り組む態度 <ul style="list-style-type: none"> ・歌唱や器楽への関心が高く、根気よく学習に取り組める児童が多い。 ・関心が全くもてない児童が数名いる。 	<p>△</p> <p>○</p> <p>△</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・休み時間等を利用し、個別に指導する。 ・最終的にどのように表現していくのか、児童が目標を定めそこに向かって活動ができるよう指導する。
図工	<ul style="list-style-type: none"> ●知識・技能 <ul style="list-style-type: none"> ・道具の正しい扱い方を身に付けようとしていたり、新しい技法を知り、すすんで取り入れようとしていたりする。一方、うまく指示通りに製作できない児童もいる。 ●思考・判断・表現 <ul style="list-style-type: none"> ・友人の作品のよさを見付けられる児童は多い ●主体的に学習に取り組む態度 <ul style="list-style-type: none"> ・色や形に関心をもち、進んで取り組む児童が多い。 	<p>△</p> <p>○</p> <p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個人的につまづきがある児童を把握し、個別に適切な助言・指導を行い、基本的な技能が身に付くようにさせる。
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> ●知識・技能 <ul style="list-style-type: none"> ・手順よく実習できた児童が多かったが、技術の向上のために習熟するための練習がさらに必要である。 ●思考・判断・表現 <ul style="list-style-type: none"> ・日頃の生活において、学習したことを活かした生活の工夫等の発展的活動までできている児童がまだ少ない。 ●主体的に学習に取り組む態度 <ul style="list-style-type: none"> ・裁縫（手縫い）に対する関心が高く、手順よく実習できた児童が多かった。 	<p>△</p> <p>△</p> <p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・技術の向上については、家庭と連携を取りつつ、授業を通して習熟させていく。 ・学習したことを実際の生活に活かせるような学習計画を立てる。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ●知識・技能 <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に、それほど高くないが、技能を高めるための補助運動を毎回行ったり、家庭学習でも技能を高めるための運動を行わせたりすることで、成果が出始めている。 ●思考・判断・表現 <ul style="list-style-type: none"> ・器械運動で技を行うためには、どの動きが必要なのか考えさせることで、自分の課題を理解し、どのように解決するか考えながら取り組めるようになった。また、学習カードに自分の課題と次回取り組む練習方法を明確に書かせることで、自分で練習方法や場を変えながら練習に取り組むことができた。 	<p>△</p> <p>○</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、毎日の家庭学習で技能を高める運動や、身体操作を向上させる運動を行わせていく。

<p>●主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none">・特に器械運動は、体の発達に伴い、すすんで取り組む意欲が低かった。しかし、毎日補助運動を家庭学習で取り組んだり、技のポイントを明確にしたり、チーム内で声を掛け合う活動を意図的に取り入れることで、積極的に取り組む児童が増えた。	○	
--	---	--